

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスまほろ桜		
○保護者評価実施期間	令和7年10月31日		令和7年11月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和7年12月15日		令和7年12月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりを尊重した個別性の高い支援	子どもを一人の人間として尊重し、良い点や課題を丁寧に捉えた関わりを大切にしています。個別課題の設定や取り出し支援を行い、発達段階や特性に応じた支援を継続することで、着実な成長につなげています。	支援内容や子どもの変化を職員間で共有し、より一貫性のある個別支援を行っています。支援の質を維持・向上させるため、専門性を高める研修や振り返りを継続して実施します。
2	子ども・保護者双方に寄り添う丁寧な対応	当日の急な要望にも可能な限り対応し、子どもだけでなく保護者の気持ちにも寄り添った関わりを心がけています。日々の丁寧な連絡や面談を通して、安心して相談できる関係づくりを行っています。	保護者とのコミュニケーションを今後も大切にし、相談しやすい雰囲気づくりを継続します。保護者の声を支援内容や運営改善に活かし、信頼され続ける事業所を目指します。
3	ICT化による業務効率化と支援の質向上	記録や情報共有をICT化することで業務の効率化を図り、職員が子どもと向き合う時間を確保し、支援の質の向上につなげている。	ICT活用をさらに進め、情報共有の精度向上や業務負担の軽減を図ることで、より安定した支援体制の構築を目指していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の姿勢や考え方の共有・明確化	事業所として大切にしている「一人ひとりの尊厳やそのらしさを大切にする支援」について、職員は日々意識して関わってきましたが、その支援観や意図を言葉として整理し、全職員や新任職員に共通理解として伝える体制を、さらに整えていく段階にあると捉えています。	支援の姿勢や考え方を整理・言語化し、研修や日々の振り返りを通して共有を深めていきます。あわせて、OJTや事例共有を活用し、新人職員も含め、誰が関わっても一貫した支援が行える体制づくりを進めます。
2	平日における活動内容の幅を広げるための工夫	平日は時間的な制約や人員体制の状況もあり、活動内容が室内中心となる場面が多くなっています。一方で、限られた条件の中でも、子どもたちにとって意味のある経験をどのように積み重ねていくかを検討していく段階にあると捉えています。	現在の活動や環境を活かしながら、短時間で取り入れられる活動や室内での工夫を中心に、できることから検討していきます。日々の実践を振り返りつつ、無理のない形で活動の幅を広げるアイデアを職員間で共有し、現状に即した療育内容の充実を図っていきます。
3	保護者との関わり方における多様なニーズへの対応	保護者との情報共有や関わり方については、家庭ごとに求める形が異なるため、一律の方法では対応しきれない側面があります。より柔軟な関わり方を検討していく段階にあると考えています。	日常的な連絡を基本としつつ、希望や状況に応じた情報提供や関わり方を検討していきます。保護者それぞれのニーズに配慮しながら、安心して相談できる関係づくりを継続していきます。